

令和6年度テーマ：「学校から未来を変える～私ならどうする～」

ロボットやAIといったテクノロジーの活用は、私たちの生活に大きな変化をもたらしました。また、突然の自然災害や地球規模の課題など、様々な社会課題が存在し、予測困難な時代となる中、あなたが思う、これからの時代を生き抜くために必要な「学び」を聞かせてください。

令和6年度の“Meet-up@さいたま”は、市立中学校・中等教育学校の生徒14名と、教育長・教育委員とが、活発な意見交換をする機会となりました。

発言者	意見の概要
1	学びとは、学びそのものの使い方や個人がどのように学び方を身につけていくかが重要。教育は地域を活性化させたり、国力を挙げていくのに必要なこと。また自分で学んだことは社会貢献に使うべきで、他者貢献することは自分の価値を社会に証明する一つの手段。教育は、国を発展させていくもの、また、自分の価値を社会に証明する2つの意味で重要。 また、教育施策を新しく導入するうえで、データが必要になってくると思うため、さいたま市教育委員会でも教育の施策を話し合う時に、教育経済学のデータとか、具体的な教育政策を導入した際の見込みなど、効果など、話し合ってほしい。
2	これからの時代を生き抜くために必要な学びは、リアルタイムな社会を知ることが大事だと思う。予測不能な社会になっていく中で、学校もアップグレードする必要がある。社会を知るためには教育を飛び出し、地域と連携した授業を行ったり、探究の授業に社会で活躍した人を呼ぶなど、社会のことをさらに知る必要があると思う。
3	近年、世界的に多様性を重視し、グローバル化も進んでおり、社会の考え方が根本的に変わってきている中で、身なりに関する校則は多様性を認める社会においてマイナスの力が働くと考えている。身なりに関する校則は人を見た目で判断するということに大きくつながる。これは多様性を広げる上では、大きな障害となる。学校でピアスをしている人がリーダーシップを取れている人もいるので、さいたま市として身なりに関して多様性や、グローバル化に障害になる校則は排除すべきと考える。
4	コミュニケーション能力の重要性。知識も大事だが、外国の人と話すときに伝えようという気持ちや積極的に話そうという気持ちが必要だと思う。自分の意見を間違えてもいいから伝えるという授業をもっと増やしてほしい。 また、実際に一回りも二回りも離れた人と話すということが学校ではあまりなく、マナーとかも気になる。社会に出たときにやることになって不安が大きい。食事のマナーとか、年の離れた人との会話があるといいかなと思っている。

発言者	意見の概要
5	学校のPCが修理等で一人一台ないため、パソコンで授業することが無い。今年学校は50周年を迎えるためパソコンを早く整備してほしい。 また、体育館のトイレが古くなっているため、改修してほしい。
6	私の学校では1フロアに2つのトイレがあるが、1つのトイレは改装されているが、もう一つのトイレは建ってから改修されていない。壁にひびがはいっており、流すと下の階に水が漏れてしまう。また、水道など中学生が使うには小さい部分がある。私たちが普段長く使用する学校施設であり、災害が起きたときに使用する人たちにとっても、あまり良い思いをする人は少ない。今回トイレの使用についてアンケートをとったところ、トイレを改装してほしいという意見が96%あった。良い学校生活、学習面の向上については、学校に長くある設備を改装するのも大事だと思う。
7	学校では年に1回から2回の避難訓練しかしていない。それも全て状況説明をしたうえで、あまり意味がないと考えている。今後何が起こるかわからない中で、しっかりと知識をつけることは、社会を生き抜く力として大切だと思う。また、防災教育というところで、災害について正しく知るという機会を設けてほしい。災害について正しく知るということは、さいたま市が被災した場合に、避難所に避難した場合のマナーだったり、炊き出しをする時の知識だったり、知識があれば地域を支えることができ、命を守ることができるため、防災教育に力を入れてほしい。
8	様々な人と話す中で気づいたのは、実際に経験したことだから言えること、納得できることがあるということ。それがリーダーシップに係っていると思う。例えば、生徒会長とか、人を引っ張る立場にある人はもちろんリーダーシップがあるが、リーダーを支える人、土台を作る人もリーダーシップがあると思う。リーダーシップのあり方をいろんな見方から見てみたい。また、一人ひとりが興味のあることに触れられる、アイデンティティーで社会を変えられるような学校で勉強したい。 加えて、教育の中でもアントレプレナーシップに興味を持っていて、同じ世代の人たちと何かを企画してみたりするのをやってみたい。
9	課題を解決する力が大事だと思う。さいたまエンジンで、地域の課題と結び付けて企業のリソースを使いながら、企画を考えるということをやっているが、地域の課題を発見するのに苦労をし、さらにはその解決策を考えても中々出てこない人が多い。そういった力は主に学校の委員会とか、身につけられると思うが、委員会は全員が所属するものではないため、所属している人と、していない人で差が生まれると思う。その差を埋めるため、受け身の授業ばかりではなく、自分たちで課題をみつけて、自分たちで解決するという授業をさいたまエンジン以外の5教科でも行えたらよいと思う。

発言者	意見の概要
10	学校では5教科しか学ばず、3者面談でもそれしか評価されない。自分の好きな分野、追及している分野をだれも評価してくれない、自分ではすごくできていると思っているところも気づいてもらえない。そうすると生涯を通して学びたくないと思ってしまう。自分の人生とか、自分が好きで追及しているところとか、それをもっと聞いてもらえる学校になってほしいと思う。
11	中学校生活で、学びを感じているのは学校行事。例えば体育祭のムカデ競争で、その競技は誰一人欠けてもできない、全員が声をかけなければ危ない競技。そこで先頭をまかせてもらった時には、皆をまとめる経験になった。 学校行事は、年に数回だが、全員で何かをする、クラスの統一感が生まれるといった、勉強だけでは得られない大切なものだと思う。
12	学びがたくさんある中で、体育がすごいと思っている。いろいろなコミュニケーションを取って、チームプレーをしたりする。自分ができなかったことをできるようになったという達成感を育まれる。保健の授業でも、胸骨圧迫の授業をやって、緊急の時に落ち着いて対処する能力も育まれると思った。 あと、体育は声を出せとよく言われる。意見をはっきり言えるようにするためには体育はいろいろなことにつながっていくと思った。
13	課題としては、データとしても出ているが読解力。最近学生生徒の読解力が低下していると新聞にも出ており、学校の国語の授業でもそのことについて話した。やはり国語の授業で作文を書いていくことに取り組んでいきたいと思った。最近はインターネットが普及して、メールなど短い文章で済ましてしまうことが多く、それも低下につながると課題に思っている。 また、提案として、賞状のことを挙げたい。賞状は特別感があるが、賞状をどれだけ頑張っても取れない人もいる。だから賞状を増やしてほしい、それをすれば生徒が自信をもつことができるのではないかなと思う。
14	法律にすごく興味がある。自分は知らなかったが、周りにはこんなに守ってくれる制度があると思った。これからの自分に必要な学びを考えることは必要だと思うが、今の周りがどうなっているのか、周りにはどんな制度があって、自分は今何をしたいのか目を向けるのはそれと同じくらい重要と思っている。もし自分が理不尽な環境に置かれたら、法律を知っていれば自分を守ったり、他の人を助けることもできる。学校でもそういう法律を学ぶ時間を取ってほしい。